



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2023
No.607
3月号

◎教団方針

ひろげよう浄霊の輪
ひろげよう仲間の輪
築き上げよう愛と活気あふれる教団を

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から



令和四年十二月二十三日(金)須玉神成郷終い納めの日、富士見亭からのぞむ霊峰富士

(一六・二〇撮影)

富士山

観音様の蓮華台

偉い仏様の坐られる所は蓮華台って言うてね。つまり蓮華の形をしてるんですが、蓮は泥の中から大きなきれいな花が咲きますから、それで尊ばれるんですよ。日本の蓮とインドの花のほうと立派だそうですよ。

蓮華台はまた大きい意味を持っているんで、高い山の周りには連山があつて、こう、ちよつと高くなって、凹んで、また高くなつてますね。つまり、あれが蓮華台

神歌

花鳥風月 吾は友とし憂き多き
春の花 世にも楽しく生きむとぞ思ふ
秋の紅葉を愛するこそ 神の恵みに応ふるなりける
風月を 友とし吾はかなめて 楽しみつつも神業進まゆ

です。箱根の強羅はこの蓮華台になつてゐるんですよ。特に、後ろのほうに高い所がありますね。いまに私はあすこに大きなものを造りますが、あすこから、富士山は観音様の蓮華台ということになります。

「ハス」っていう言葉は「ハチス」でね、「ハチス」っていうのは富士山になるんですよ。富士山は八の字の形をしてるんですよ。そして「ス」は中心ということですから、富士山の頂上が「ハチス」になるんです。それで、あすこに木花咲耶姫尊が祀つてあるのも、そういう意味からなんです。木花咲耶姫尊は仏界で観音様になられますからね。

「八」という字を解釈してみると、「八」は「八百万」とかと、そういう意味のことによく言われますが、「富士山」の形になるので。富士山は八の字の形です。ですから富士山は一名「ハスの山」と言うのです。「ハス」ということは「ハス」ということです。つまり仏教的と言うと、

「ハス」は「蓮の花」になります。それで、蓮の花は蓮華台ということ。蓮華台というのは、一番高い山です。よく仏像などが立ったり、あぐらをかいたりしてゐるのに、下に蓮の花があります。観音様の絵などにも、蓮の花の上に立たれてゐるのがよくありますが、そういうふうで蓮ということは、非常に貴い神仏が乗られるという意味なのです。ですから富士山には木花咲耶姫がお祀りしてあるということは、木花咲耶姫は観音様ですから、富士山は観音様の蓮華台ということになります。

そういうふうですから「はす」ということは蓮華台ができるということにもなります。とにかく一番強い意味は開くということです。また「八」は「ハ」で、「ハ」というのは「発する」ということで、開けるから、今年からそういう形になっていくわけです。



木花咲耶姫
—神保豊作—

令和五年一月二十二日(日)
感謝祭 光守様「おことば」 抜粋

「立春について」

んと出来なくなってくるという事です。



私共は善徳を判断できる魂をいただいております。明主様は「人が善人とか悪人とかは決して人間が判断してはいけません。それよりも大事な事は、自分自身のやっている事が、神様の御心に叶った良いことなのか悪いことなのか悪いこと

節分・立春という日は、神様のほうのお仕組におきましての転換期、一つの節になる重要な日であると明主様から教えていただいております。
この節を境にだんだん霊界が明るくなっていく、だんだん地上天国、昼の世界に近づいていくということでございます。

「一人でも多くの人を幸せにさせていたどうか」という御心の御心に少しでも近づいていければ結果的に本当の幸せを与えていただけるということでございます。
立春が一つの節となつて一歩更に昼の世界いい世の中になつていく中。
そういう世の中に少しでもふさわしい人間に私共はならせていただきたいと思うのです。

会長訓「春は来ぬ」

会長 大沼 泰彦

ずいぶん日差しが強くなってきました。窓越しに太陽の日を浴びると暑いくらいです。間もなく春分を迎えます。「冬の夜は 早すぎ去りて花笑ひ 百鳥歌ふ春は来ぬめり」明主様が春をお詠いになられた神歌です。明主様が自然をこよなく愛された思いと、「笑う」「歌う」のことがを詠み込まれて春が来るのをこころ待ちになさっていた御心が何われ、私は好きな一首です。

祖先を尊び、真心をもって御供養の祭典をお仕えさせていただいております。御先祖様をお救いさせていただきますには『死後の霊的孝養を尽くすことこそ大きな孝行となるのである。もちろん墓参、法事なども祖霊はすこぶる喜ばれるから、遺族または知人などでもできるだけ供養をなすべきで、これによって霊は向上し、地獄から脱出する時期が促進されるのである。』とお諭し頂いています。

今月はお彼岸の月です。教団は綱領に掲げられているように

今月は「春のみたままつり」として御先祖様の御供養を光守様御先達の下大御祭典としてお仕えいたします。御先祖様がこの祭典に御招魂され御供養されますように、信徒の皆さんは御供養のお申し込みを積極的にさせていただきます。御先祖様の御供養にはもう一つ大切なこと『遺族およびその子孫



御先祖様の御供養にはもう一つ大切なこと『遺族およびその子孫

が人を助け慈悲を行い、国家社会のために尽くす等、善徳を積むことによつて、祖霊の浄化作用は促進されるのである。』とのご教授も忘れてはならないことですね。
間もなく桜も咲き始めますが、休眠打破といって、桜は寒い時を過ぎさないと花が咲かないといわれています。寒くて辛い冬があるから春の訪れはありがたく感じます。明主様は『大自然が先生』だと仰つて、『人間と雖もそれに倣うべきが真理である』とお諭しされています。自然界は春を待つて種を残すことに一生懸命です。冬を浄化に例えれば苦しい事、辛い事、争い事それらを、信仰のお蔭で乗り越えさせていただいています。私たちも御自分の信仰をどこに残すことを心掛けなければならぬと思います。
休眠打破！背筋を伸ばして、花を咲かせてまいりましょう。

トピックス 1

令和五年一月二十七日(金) 東京本部御神前において、各教会、光導所にお届けする『守護鈴光鈴』に御霊入をする光守様

今回は光守様たつてご希望で『光鈴』の袋詰めを自身で丸二日間なされました。



信徒皆さんの1年間の御守護と祈願を『光鈴』に託される光守様

感謝奉告

日々のお浄め 鈴木淳一 (塩竈教会所属)



昨年一月をもつて、三十五年勤めた会社を身体を壊して退職いたしました。血圧、二百血糖値百八十など仕事を辞めた具合も、毎日の自己浄霊で、お蔭様にて現在は血圧百三十五と落ち着いています。これから先は、いろいろやれなかつた事をやっ

て行こうと思ひ、一人ででも世の為人の為に出来ることをと、お浄めに取り組ませて頂きました。お浄めの前には、戦争や経済の不安、コロナの猛威で苦しんでいる人々を少しでもお救い出来るよう、心を込めて祈り、週に五日から六日は、各地に出かけ霊界、現界御浄めをさせて頂いております。主に日本三景の松島や、津波被害の大きかった、石巻、気仙沼、七ヶ浜、野蒜等に参りました。

松島の西行戻りの松公園があります。その場所で、天津祝詞、善言讚詞を唱えてさせて頂きお浄めをしている時、近くに何人か居てその内の六十代位の女性の方が御浄めが終わると同時に、会釈をされ、『どうぞ』と、チョコレートを一割下さいました。私もちよつと驚きましたが、なぜ私がこういう事をしているのか、お話をさせて頂きました。東日本大震

災で亡くなられた人達の御供養と、二度とこの様な災害が起こりません様にと、お浄めさせて頂いていましたとお話しました。その方は静かに聞きながら涙ぐんでおられました。私達には、神様がいつも、いつでもお力を御貸しして下さいのだという事、御浄霊には、人の心も動かすお力が有るのだと思ひ、なお一層一人でも外に向かつて実践活動に自信を持って取り組む事が大切だと、強く思いました。

教団創立五十周年に寄せて 第五回



高柳圭子 (浜松教会所属)

《私は昭和五十四年二月に入信のお許しを頂きその年に学校給食の事に就くことが出来ました。母が甲

状態の手術後体調が優れずにいる時に、ご浄霊で体調が戻り、親子で出来るから良いねと入信させて頂いたと記憶しています。入信後は教会へのご参拝、勉強会や青年学生生活活動練成会に参加をして、明主様の神言

霊を学ばせて頂きました。積極的にあります。積極的ではありませんが、仲良く学びや活動を楽しくすることができました。職場は、人間関係にも恵まれていつも笑い声がありました。大規模な職場でしたので、身体は疲れ切った毎日でしたが、仕事が楽しかった思い出は私の宝物です。また椎間板ヘルニアのご浄化を頂きました。自分の健康管理が不十分であった事を後になつて反省いたしました。痛みが激しく、どうしてなのと相当落ち込みました。退職した方がよいのではと思ひ悩みましたが、職場の先輩からお休ませて治してねと言っていた

き、とても有難かったです。四ヵ月間お休みをしました。整形病院の医師からは手術という方法もできない状態ですと言われ、リハビリに通いました。お休みの間、沢山ご浄霊を頂きました。激痛時にも御浄霊をいただいたら、寝息を立てて、寝ていたよと母が笑って話をしてくれました。その後、お蔭様で復帰することができ、また規模の小さな幼稚園に異動となり、定年退職まで無事に勤める事が出来ましたこと、今も感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。当初入信は母と二人でしたが、父、妹、親戚の伯父伯母、友人知り合いにお許しを頂きました。歳月の流れには帰幽、退会をされた方もあります。両親も無事霊界に送らせて頂きました。親孝行のできていない私の孝行は、これから少しずつです。ご先祖様へのご供養をさせて頂ける事に感謝の日々です。昨年は教団創立五十周年の年、小冊子作成の御用を頂きました。自分たちで作成できるものなのか私は大分重い御用と思つてしまいました。作成していく中で、先輩の皆様

の熱意や、懐かしい写真に当時を振り返ることができ、作成に取り組む姿勢も学ばせて頂き、本当に感謝申し上げます。歴史の中に存在している私達、引き継いで行かねばと思ひが湧いてまいりました。今年も新しいことに挑戦するのに最適と言われます。教団五十一周年ここからまた始まる年だと思ひます。情報が溢れ

て、何を選択して良いのか迷い、間違つた選択をしてしまいがちな世相、天災、考えられない犯罪が日常です。ご浄霊を取り次がせて頂けることに感謝と誇りと自信を持ち、お伝えさせて頂いたたく御用を一から始めさせて頂きたいと思ひます。神歌にもありましたが、迫害と誤解の困

みにも朗らかに過ごされた明主様。笑顔は人間として大切であると教え下さつています。守らせて頂き、笑顔で教団方針を心に刻み進ませて頂きます。宜しくお願い申し上げます。大光明様、明主様、ありがとうございます。光守様深いお祈りありがとうございます。 ※最終回 次号より「教団次の五十年に向けて」編を掲載します。

トピックス 2

―― 渋川栄志さんの油絵半世紀ぶりの郷帰り―― (富士宮光導所)

教団創立間もない頃、画家であった信徒の渋川栄志さんの御遺族より、そのアトリエを富士宮光導所として提供していただきました。一月十九日、光守様御巡光の際、光導所に渋川さんの作品が無いこと

に気づかれ「渋川さんの御霊様を考へると自宅に飾つてある渋川さん作の油絵を、この光導所に飾ることが一番の御供養ではないか」とお考えになり「馬」と名のついた油絵を献納された。



光導所 御神前脇に飾られた油絵 故大沼昌司先生が午年ということで描いていただいた作品



岡田茂吉 の 自然農法

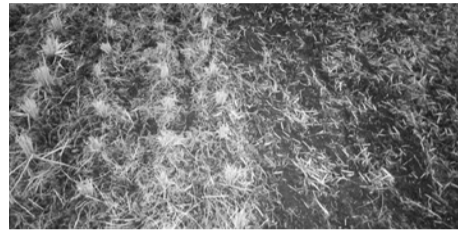
冬場の教団伊那農場より



冬場の畑から掘り起こした菊芋

……
教団伊那農場の所在する長野
県伊那は冷涼な地域で、冬場
になると雪はそこまで多く降ら
ないのですが、寒さが非常に厳
しくなります。その様な環境でも
正しい方法を守れば、畑から農
作物を得る事が出来るのです。
主な農作物はネギです。長期
間貯蔵できますが、一度収穫し
てしまうと鮮度が落ちてしま
いますので、冬場まで抜き取ら
ず畑に残しておきました。勿論そ
のままの状態ですと寒さで傷ん
でしまい

ますので、葉の付け根まで厚く土を寄せておきます。これにより鮮度を保つことが出来ます。また、ネギ以外では少量ですが菊芋も育てており、同じように畑に植わっていた物を冬場に収穫しました。こちらも土の中にあつたため傷んでおらず新鮮でした。菊芋は栄養価の高いスーパーフードとして注目されており、若返りホルモンDHEAが含まれていることも分かっています。これらの農作物は節分・立春祭に東京本部へ献上させて頂きました。



細かく刈り込んだ稲の株

出来ました。更に掘り起こし予定日の前に長野県全域が積雪となり、畑もすっかり雪に覆われました。この雪の作用によりネギの甘味がより増しました。

収穫だけでなく、水田での作業も行いました。一般農法では、秋の収穫が終わった後に水田内を耕す「秋おこし」を行います。教団伊那水田では微生物の生存や水を張ったときの水位を考慮し、春に耕します。その時に稲刈り後に残った稲の株が僅かながらの有機物として一緒に耕されるのですが、神言霊より『藁はなるべく細かくしな

『お山』での一日 富士宮光導所

光守の思い

『救いの光教団富士宮光導所』茶畑脇にある質素ながら威厳に満ちた看板を起点にはじまる急な坂を登り切った杉林の中に、今テレビではやっている「ポツンと一軒家」のごとく富士宮光導所があります。急な坂道も場所に応じてコンクリート敷き、階段、踏石、手すりが信徒さんの手で整備され、ご苦労の跡が偲ばれる。



質素ながらも威厳に満ちた光導所の看板
ここから登山道が始まる

高年齢の信徒さんがなれた足取りでスタスタと登っていく。皆この光導所を親しみをこめて『お山』と呼んでいるという。何十年ぶりかしら？昨日からいろいろな思い出が蘇る。画家であった信徒の澁川栄志さんのアトリエを教団に提供していただいたから半世紀が過ぎていく。



1月14日(日)「おことば」を述べられる光守様

御神殿はもちろん、建物内の隅々にまで手入れが行き届いている。何年度も補修をくり返しているという。信徒さんの心が感じられる清潔感溢れる光導所。同行した宮内東京教会長も大きくうなづく。

信託さんの高齢化と建物の老朽化でこの場所での集会はむずかしいのではないかと、教団側の考えをお伝えすることもあり、感謝祭に伺ったのですが、皆さんの総意は「できればこの場所での信仰を続けたい」ということでした。この謙虚な言葉を聞き「申し訳なき」と「すがすがしさ」が同時にこみあげ浅はかな自分を恥じました。「現地に来なければわからないこと。」「目と目で話さねばわからないこと。」「正直に気持ちを伝え、お聞きすることの大切さ。」「凛とした『お山』での一日は素直に「信仰の原点」を新たに考えさせられる貴重な一日となりました。

人事異動のお知らせ

新任 責任役員 山田友子教師

立春祭・特別大祈願において山田友子教師(浜松教会長)が「責任役員」に就任しました事を謹んでお知らせ申し上げます



光守様より任命書を賜る
山田友子浜松教会長